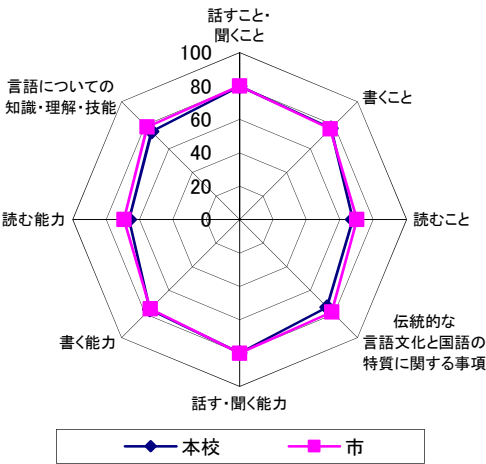


宇都宮市立田原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	79.9	80.1	77.9
	書くこと	77.3	76.8	65.3
	読むこと	67.8	70.3	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.2	78.3	74.3
観点別	話す・聞く能力	79.9	80.1	77.9
	書く能力	76.2	75.6	64.2
	読む能力	66.2	69.2	65.4
	言語についての知識・理解・技能	74.6	78.4	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

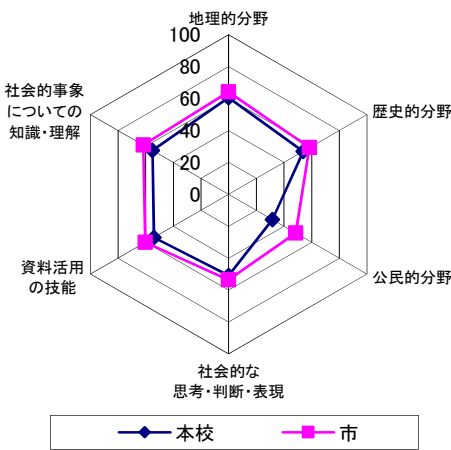
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話の内容を正確に聞き取る問題の正答率は98.2%であり、ほとんどの生徒が正答することができた。また、市や全国の平均を上回っている。 ●全体的に見ると79.9%の正答率で、宇都宮市の平均を下回っている。話の内容の中でどこが重要なのかを考えながら聞くことができていない。	・話を聞く際に、ただ聞くのではなく「どこが重要か」「どこに注目すべきか」と意識しながら聞く力を育てていく必要がある。そのため、今後も聞き取りテストの実施を継続し、ポイントを整理しながら聞くよう指導していく。 ・授業の中で言語活動を効果的に取り入れ、生徒が話す・聞く場を増やしていく。その際に話す態度・聞く態度も指導していく。
書くこと	○作文の項目は全て市・全国の平均を上回っている。自分の主張とその根拠を9割以上の生徒が述べられている。 ●資料を集めて発表原稿を書く問題では、全ての項目で市の平均を下回っている。材料をもとに自分の意見や考えを書くことが苦手である。	・今後も作文の指導を授業で積極的に取り入れ、生徒に作文の書き方を定着させていく。様々なテーマの演習を重ねることで、書く力を伸ばしていく。 ・作文だけでなく、発表原稿の作成など様々な書く演習を取り入れていき、生徒の書くことへの抵抗感や苦手意識を軽減していく。
読むこと	●説明文・文学作品ともに正答率が市の平均を下回っている。特に登場人物の心情理解が苦手である。文章の構成や展開を捉える問題も正答率が低い。	・説明的文章においては、キーワードや展開に着目して読み進めていくよう指導していく。 ・文学作品は、登場人物の心情の読み取りを中心に様々な作品を通して読む力を高めていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題の正答率は98.8%であり、古文の基礎が身についている。全国の平均と比べ13.3ポイントも上回っている。 ●市の平均より4.1ポイント下回っている。主に漢字の読み書きの問題の正答率が低い。	・漢字への関心・意欲を高めていく。漢字プリントを授業の中でも取り入れ、漢字テストも実施していくことで漢字の読み書きを習慣・定着させていく。 ・古文の授業では基礎基本の徹底を行うとともに、生徒の学習意欲を高めていくことに努める。視聴覚教材を用いたり、社会科の歴史の授業と関連付けたり、生徒の関心を高める授業を実践していく。

宇都宮市立田原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	60.5	64.1	57.5
	歴史的分野	53.9	58.4	52.8
	公民的分野	31.6	48.5	40.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	50.9	53.6	47.5
	資料活用 of 技能	54.0	60.3	53.3
	社会的事象についての知識・理解	55.1	61.8	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

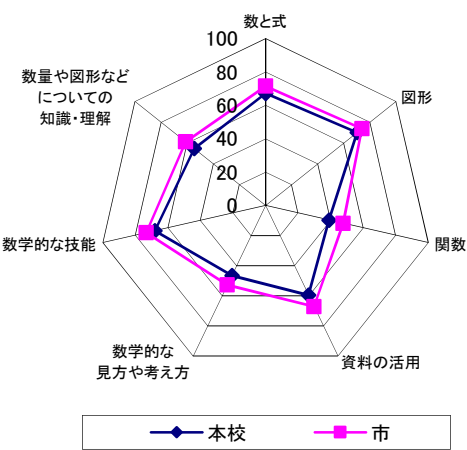
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○地理的な用語や世界の地誌においては理解されている状況である。 ●国や地域のつながり、産業について理解が不十分な点が見られる。	・世界地図を使い、地域ごとに学習したことを全体の中から判断していく学習が必要である。 ・類似したことが、別の地域でも見られることを気候や地形などの自然地理の面から大きく理解し、それぞれの地理的事情の意味を理解させていく。
歴史的分野	○歴史的な事象に対する知識や起こった順序については、よく理解している。 ●古代・中世の歴史的な事象の理解が不十分である。 ●近代以後の複雑な国際関係において、知識と理解が不足している。	・既習事項の確認をしながら、歴史の流れを全時代からの発展や変化としてとらえる学習が必要である。
公民的分野	○政府の仕事や人権に関することには、ある程度理解しているといえる。 ●三権の仕事とそれぞれの関係については、理解が不十分である。	・国会、内閣、裁判所のそれぞれの国民に対する役割を資料を通して理解させていく。

宇都宮市立田原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	67.3	71.5	66.8
	図形	70.1	73.8	70.4
	関数	39.0	47.8	41.6
	資料の活用	59.6	67.1	61.4
観点別	数学的な見方や考え方	46.5	52.8	45.8
	数学的な技能	68.0	73.3	68.1
	数量や図形などについての知識・理解	54.7	61.2	57.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

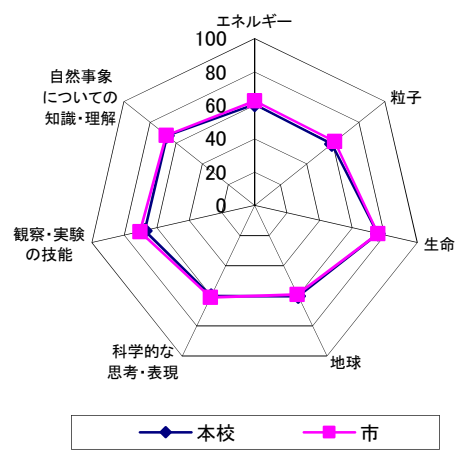
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○累乗を含む正負の数の加法では、正答率が90%を超えている。 ○平方根では、市平均を上回っている。 ●方程式(1次・連立・2次)では、市平均をやや下回っている。特に連立方程式の文章問題での正答率は低い。	・計算における知識や技能面では、家庭学習やドリル形式の学習等、継続して向上を図った指導をしていく。 ・平方根に関しては、平方根の意味を理解させた上でさらに技能や考え方の向上を目指して指導していく。
図形	○図形の作図においては、73%の正答率であった。 ○n角形の外角の和が360°であることを理解し、問題の正答率も市平均を上回った。 ●図形の証明に関しては、正答率76%であるが市平均を下回っている。	・図形の証明では、「基本的な証明」の流れをしっかり指導し、繰り返し証明することで基礎基本の定着を図っていく。 ・授業の中でお互いに学び合える雰囲気を作り、ペア・グループ学習等、学習形態の工夫をしていく。
関数	○1次関数の問題では、正答率約70%であった。 ●関数に関しては、問題全般において正答率が低い。特にxとyの値に着目したり、2乗に比例する関係を捉えたりする問題の正答率は3割未満で課題がみられた。	・xとyの変化に着目させて、数量の関係性を考える場面を多く取り入れる。 ・グラフが式で表せるという概念が生徒にとっては、理解しがたく苦手意識を持っている理由である。時間をかけ、グラフと式の関係性を丁寧に指導していく。
資料の活用	○度数分布表における中央値の問題では73%、確率の問題に関しては82%と高い正答率が出ている。 ●相対度数を求める問題やグラフから読み取る問題では、50%未満という結果で課題がみられる。	・身近で興味関心のある資料を準備し、その特性を読み取ったり、活用したりする活動を通して、技能や考え方を育てていく。 ・資料から何かを読み取り活用する場面は、中学校卒業後も生活や仕事の中で出てくるものである。基礎をふまえた上で読み取り方や活用の仕方を丁寧に指導していく。

宇都宮市立田原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	60.6	62.7	57.6
	粒子	59.1	61.5	57.7
	生命	75.7	75.8	72.1
	地球	60.2	59.0	45.0
観点別	科学的な思考・表現	60.2	61.0	54.8
	観察・実験の技能	67.5	70.4	64.1
	自然事象についての知識・理解	67.1	67.6	62.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

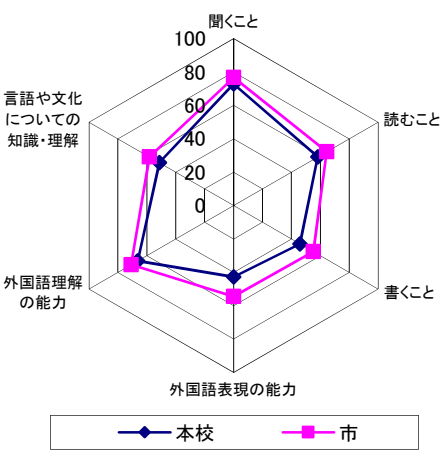
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○音に関する問題の正答率が市内平均、全国平均をそれぞれ上回っている。 ●電流に関する問題、特に計算のかかわる問題の正答率が低くなっている。 ●運動の基本はできているが、理由を問われると正答できない生徒が多い。	・用語や実験の結果などは、ある程度生徒に定着していると考えられる。その反面、計算が入る問題や理由を答える問題の正答率が低いので、計算に関しては繰り返し演習を行い、思考能力は普段の授業で繰り返し質問することで育てていく。
粒子	○密度の計算方法や、物質の見分け方など、活用に関する問題でも正答率が市内平均を超えている。 ●化学変化やイオンに関する正答率が全国平均を超えているが、市内平均よりも低くなっている。	・実際に目に見えないものをどのようにイメージさせるかが大切になると考える。全体的に定着してきているが、全く答えられない生徒もいるので、全員にわかりやすい授業を心掛けていく。
生命	○植物に関する問題の正答率が市平均、全国平均をそれぞれ上回っている。 ○生物の分類に関する問題の正答率が市平均・全国平均をそれぞれ上回っている。 ●遺伝子や染色体に関わる活用問題にかかわる正答率が市内平均より大きく下回っている。	・知識に関してはかなり定着してきているが、活用問題を解く力が十分に育っていないので、普段の授業から活用能力を育てていく。
地球	○分野全体の正答率が市内平均を上回っている。 ○化石に関わる問題に関する正答率が非常に高く、全国平均よりも20ポイント近く上回っている。 ○前線に関する問題の正答率が全国平均を20ポイント上回っている。	・知識がかなり定着してきているので、継続して指導していく。

宇都宮市立田原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	72.9	76.8	73.1
	読むこと	58.3	64.5	59.9
	書くこと	46.0	55.3	59.7
観点別	外国語表現の能力	42.7	54.5	59.0
	外国語理解の能力	66.3	70.9	65.9
	言語や文化についての知識・理解	51.4	58.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
（英語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。）



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○英文に適する絵を選ぶ問題の正答率は90ポイントを超えていた。また、対話の内容を聞き取り、その答えを答える問題も3問中2問が70ポイント以上だった。 ●英文の要点を1つの単語で答える問題は概ねできていたが、内容そのものを答える問題は正答率が低かった。また聞いた英文の内容について	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・リスニングをするうえで英文全体や内容を聞き取り、答えることができるよう、ディクテーションの活動（聞こえた英文の通りに書く活動）や教科書の本文を用いたTF問題を行っていく。 ・聞こえた英文や内容について、日本語でも英語でもメモをとるように指導していく。
読むこと	○対話の流れと案内図をもとに適切な行き先を答える問題は72.8ポイントだった。また、ブログの内容を問う問題も75.3ポイントと若干ではあるが、市の平均を上回っていた。 ●上記で示した項目以外は市の平均を下回っていた。特に長文の内容に当てはまる英語を選ぶ問題は43.2ポイントと市の平均を大きく下回った。	・文の大まかな内容や単語を読み取ることはできるが、文法を意識して正確に読むことを苦手としている。文法や単語の復習を繰り返しやっていく必要がある。 ・教科書の本文以外のリーディング教材を用いて、まとものある英文を読む活動をより多く取り入れていく。
書くこと	●書くことに関しては全体的に市の平均を下回っている。特に人を紹介する英文や好きな季節についての英文を書く問題は市の平均を大きく下回っていた。	・書くための文法や語彙の定着がされていないので、既習文法をこまめに復習する必要がある。また、基本的な単語やまとまった英文を書く活動を多く取り入れ、書く力を高めていく。

宇都宮市立田原中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業における「本時のねらい」の提示と「振り返り」の充実	どの授業も、授業の始めに「本時のねらい」を必ず提示し、その時間に身につけることを明らかにする。最後には「振り返り」を行い、その授業で身につけたことを買う人させる時間を取っている。	この取り組みに関わる質問項目はなかったが、今後も継続し、この時間で身につけることを明確にさせ、身についたかどうかを自分で振り返る時間を取っていく。
話し合い活動の積極的な導入	話し合いに入る前に、各自で考えたり意見をまとめたりする時間を設定する。話し合いの意見交換の状況を見取ったり、結論を導いた理由を確認したりする。	この取り組みに関わる質問項目はなかったが、今後も各授業で自分の意見や考えをもたせ、より深く考え学び合う機会を設けていく。
家庭学習の習慣化	毎日意欲をもって取り組めるよう、教科間で内容の工夫や調整をする。また、学級担任により呼びかけや声掛けをし、習慣化を定着させる。	「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」「テストで間違えた問題は、もう一度やり直している」の質問に対する肯定的な回答は学年が上がるにつれ上がっているものの、市の平均より下回っている。今後も継続して呼びかけ、課題の提出を徹底したり、家庭学習の習慣化を強化していく。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

学年が上がるにつれ意識は変化しているが、「宿題を期日までに提出」「その日のうちに復習」「間違えた問題のやり直し」などの取組に課題がある。今後も、家庭学習の習慣化や内容の充実を図り、基礎基本を身につけていく。